

職場を支えているという自覚 —中堅職員の役割



市町村職員中央研修所（市町村アカデミー）前学長 **岡本 全勝**

（あなたの自身を評価する）

連載「これからの時代に求められる自治体職員像」の第3回は、「中堅職員の役割」についてお話ししましょう。

あなたは職員としての経験を積み、中堅と呼ばれる立場になりました。あなた自身は、まだ一職員の気持ちでいるかもしれません、同僚や後輩だけでなく、上司や他の部署からも頼られています。そして、管理職を目指す位置にいます。

毎日、忙しく仕事を処理していることでしょう。しかしそれだけでは、もう一段上の能力は身につきません。立ち止まって、あなた自身を見直してみましょう。

（何を得てきたか）

あなたが、これまでの職場経験を通じて、身につけてきたものは何か、具体的に考えてみましょう。

学生の場合は、教科書に覚えるべきことが示されていて、どこまで覚えたかは試験で明確になります。それに対して職場では、文書事務やパソコンの使い方など研修を受けて覚えることもあります、必要な能力は実務を通じて身につける「仕事の仕方」や「仕事の作法」の方が多かったのではないか。

今の自分と採用されたばかりの新人とを比べてみてください。彼ら彼女らは、何を知らないか。

- ・現在の課題は何か
- ・指示された事務を処理する段取りと、できあがりの姿の想像
- ・文書の作り方、記録と保存の規則
- ・困ったときの対処の方法、相談の仕方
- ・部外者との応対の仕方
- ・年間の仕事の予定、次は何が問題になりそうか…などなど

（期待されていること 1 職場の中心になる）

あなたは、職場の中心となっています。自分の仕事を手早く処理することとともに、指示が無くても、職場全体の仕事を進める立場になっているのです。すると、同僚や部下たちの仕事ぶりに気を配ることも必要です。

あなたが役所に入ったときには、先輩たちを見て「すごい」と思ったはずです。その姿に、今のあなたはなっているのです。若手職員から見ると、あなたは「仕事ができる先輩」なのです。自信を持ちましょう。

でも「怖い先輩」になってしまいませんか。あの頃の自分を思い出して、後輩には優しくしてやってください。職員が相談しやすい、頼りになる先輩

になってください。相談できずに悩んでいる職員がいないか、見回してください。職員の話を聞くことは、管理職にとって重要な仕事です。管理職に選ばれる前に、その予行演習をしておかなければなりません。

(期待されていること 2 上司を支える)

後輩と周囲に目配りをするとともに、今度は上司を見てください。

上司は、困っている職員がいることに気がついているでしょうか、予定通りに進んでいない事務を把握しているでしょうか。部下は上司に良い話を持ち込みますが、悪い話は伝えにくいものです。そのために、うまくいっていない事務があることを、上司が理解していない場合も多いです。それを上司に伝えることも、あなたの役割です。そして、解決方法を助言することも、期待されているはずです。

いずれ、あなたも管理職になれば、同じようなことに悩むでしょう。その際に、このような心構えを持っているだけで、大きな違いがあります。そして、あなたの話を聞いた管理職がどう行動するか、それを見ることができるのであるから、こんないい予習はありません。

(目指す目標)

今の職位で満足せず、さらに上を目指しましょう。今のあなたに、管理職になるには欠けている要素は何でしょうか。

あなたには、憧れる先輩や尊敬する上司がいますか。では、その人のどこが良いのでしょうか。その人を手本にして、良い上司、先輩を目指しましょう。他方で、嫌な上司や同僚もいるでしょう。では、その人のようにならないように気をつけましょう。

(一人で考え込まない)

長所を伸ばすためにも、欠点を修正するためにも、あなたが自分自身を見直すことは重要です。その際に自分を見ていても、長所や欠点はわかりません。「自己評価は5割増し、他人の評価は3割引」と言われます。

客観的に見るためには、誰か「物差し」になる人を置いて、その人と比べることが早道です。その人と比べて、何が足らないかを考えるのです。

もう一つ、簡単で効果的な方法があります。それは、上司、先輩、同僚に、あなたの評価を聞くことです。自分では気がつかない点を指摘してもらえます。お茶を飲みながら、そのような話ができる先輩を持っていますか。親しい先輩なら、あなたの長所を褒めて、そして欠けている点や伸ばすべき点を指摘してくれるでしょう。耳の痛いことも言われるでしょうが、ありがたい指摘と思って感謝しましょう。職場での期首と期末の上司との面談と評価もよい機会です。人をどのように評価するか、どう励ますか、という観点からもたいへんいい勉強になるはずです。

あなたに連れ合いがいるなら、その意見も聞いてみてください。ひょっとすると、厳しい意見をくれるかもしれませんよ。

